

# 新居浜市議会 市民との意見交換会 議会フォーラム 2021

## 開催報告書



令和3年11月18日(木)・19日(金)

新居浜市議会

## 目 次

	ページ
市民との意見交換会の概要 .....	1
 <記録>	
11月18日 市民福祉委員会 .....	2～13
11月18日 企画教育委員会 .....	14～23
11月19日 経済建設委員会 .....	24～34
資料（会場ホワイトボード） .....	35・36

## 新居浜市議会市民との意見交換会「議会フォーラム 2021」の概要

### ①開催目的

市民との意見交換を通して市民の多様な意見を把握し、政策形成に反映させるため、市民（団体）との意見交換会を開催する。

### ②開催結果 ※各常任委員会を2日に分けて開催

日 時 令和3年11月18日（木）19時～20時40分

#### 第1部 市民福祉委員会

- ・参加団体 にはま環境市民会議、新居浜環境カウンセラー等交流会、新居浜工業高等専門学校、新居浜工業高等学校、新居浜西高等学校
- ・テーマ「カーボンニュートラルに向けた取組について」

#### 第2部 企画教育委員会

- ・参加団体 新居浜市公民館連絡協議会、口屋跡記念公民館運営審議会、新居浜市コミュニティ・スクール推進協議会
- ・テーマ「今後の公民館の在り方について」

令和3年11月19日（金）19時～20時00分

#### 経済建設委員会

- ・参加団体 新居浜機械産業協同組合
- ・テーマ「魅力ある街づくりについて」

会 場 あかがねミュージアム 多目的ホール

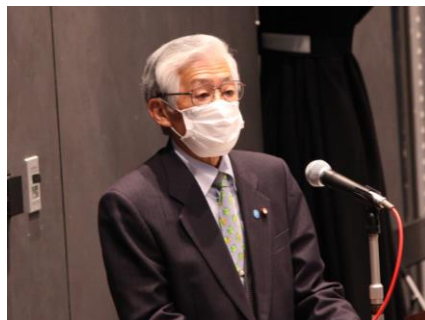
コーディネーター 愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

日時 令和3年11月18日(木) 19時～19時47分

■司会 市議会議員 伊藤 謙司



■開会挨拶 市議会議員 山本 健十郎



<第1部 カーボンニュートラルに向けた取組について>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

(市民福祉委員会)

- ・大條 雅久議員 (委員長)
- ・越智 克範議員 (副委員長)
- ・仙波 憲一議員
- ・藤田 豊治議員
- ・篠原 茂議員
- ・米谷 和之議員
- ・藤田 誠一議員
- ・黒田 真徳議員

(にいほま環境市民会議)

- ・太田 初 (会長)

(新居浜環境カウンセラー等交流会)

- ・永易 弘三 (世話人)

(新居浜工業高等専門学校)

- ・岡本 梨沙 (生物応用化学専攻)

(新居浜工業高等学校)

- ・伊藤 与志喜 (3年生)

- ・小野 拳新 (2年生)

- ・赤瀬 翔琉 (1年生)

(新居浜西高等学校)

- ・三宅 百合花 (2年生)

- ・河村 心響 (2年生)

## 記録

### ●大條議員＜委員長趣旨説明＞

今年のノーベル物理学賞は、四国中央市新宮出身の真鍋淑郎氏が地球温暖化研究の基本モデル開発者として受賞された。温室効果ガス・CO<sub>2</sub>削減が全地球規模の喫緊の課題であることを示す出来事だと思う。温室効果ガス削減は先進発展国だけでなく、全ての国々に関わらなければならない事柄だとCOP21でも規定された。産業分野、企業活動の責任分担は大きいですが、私たちの日常生活の中でも実践できることがいくつもあるかと思う。私たち一人一人の関わりや意識づけを中心に国が目指す2050年のカーボンニュートラルにどう関われるか、関わっていかなければならないのかを意見交換したいと思う。



### ○前田教授

このテーマについて、団体の方から現状や意見についての発言をお願いしたいが、にいはま環境市民会議の太田会長から口火を切っていただきたい。

### ●太田会長（にいはま環境市民会議）

まずはカーボンニュートラルについて、簡単に説明させていただく。カーボンニュ

ートラルという言葉は環境に関する用語であり、本来は植物や植物由来の燃料を燃焼してCO<sub>2</sub>が発生しても、その植物は成長する過程でCO<sub>2</sub>を吸収しており、植物のライフサイクル全体で見ると大気中のCO<sub>2</sub>を増加させずにCO<sub>2</sub>排出量の収支は実質ゼロという考え方である。これを世界各国が脱炭素社会の実現と目標の取組としてわかりやすく解説したのは温室効果ガス、ここでは二酸化炭素やメタン、フロンガスなどの排出量をできるだけ削減し、削減できなかった温室効果ガスを吸収または除去することで実質ゼロにすることである。しかし、温室効果ガス排出量を完全にゼロに抑えることは現実的には難しいため、できるだけ削減努力をした上でどうしても排出せざるを得ない温室効果ガスを植林や企業の技術を活用して吸収、除去などの何らかの手段を用いて実質的にゼロにすることがカーボンニュートラルの基本的な考え方である。そこで、にいはま環境市民会議は環境活動の一環としてごみの減量、特に生ごみの堆肥化を推進する冊子を作って市民の皆さんに配布する活動や家庭、事業所などで消費エネルギー量を測定、計算して、排出されるCO<sub>2</sub>を確認する環境家計簿などの取組を推進し、環境に優しいまちづくりを行政、市民、事業者と一体となって活動している。

### ○前田教授

環境カウンセラー等交流会のカウンセラーの永易さんはどうか。

### ●永易さん（新居浜環境カウンセラー等交

## 流会)

カウンセラー等交流会では10年ぐらい活動をしているが、月に1回の会合で環境に関するいろいろなことを話し合っている。昨年度に各一般家庭で非常に分かりやすい形でCO<sub>2</sub>を減らす方法はないだろうか、また、そのような運動を起こせないだろうかということを議論して、今年度、にはいま環境市民会議の協力を得て、プロジェクトチームを新たに作り、活動を開始している。CO<sub>2</sub>削減見える化プロジェクトとして、パンフレットを作成し活動しているが、具体的には自転車を今まで以上に利用していこうという運動を市民全体で盛り上げようという運動である。各家庭のCO<sub>2</sub>排出量の比率は統計的に分かっており、一番多いのは光熱や家電で、2番目に多いのが移動である。車社会であるため、移動時に排出されるCO<sub>2</sub>は非常に多く、各家庭から排出される全体の4分の1となっており、それを減らそうとすることは各家庭でできるCO<sub>2</sub>の削減としては、非常によいものと考えている。そこで、みんなに自転車を使ってもらうためにはどうしたらいいかということを考えて、やはり自分が移動した距離が目に見えて分かれば推進力になるということで、今年度から始めているプロジェクトでは、参加者に距離計を配布して、自らが何キロ走ったということを実感できる体制を作ろうと思っている。また、実際に距離計で測った距離数を報告してもらおうシステムにしているが、例えば1キロ走るだけでC

O<sub>2</sub>の排出を120リットル削減できる。120リットルというと家庭のお風呂の半分くらいの量で、たった1キロ走るだけで排出しなくて済むことになる。そのため、月に100キロ走れば、CO<sub>2</sub>をすごく減らしたという実感を持つことができ、やる気を出せることになる。1キロで120リットルの削減ができることを実感してもらえれば、距離数を増やそうと努力をしてもらえるため、非常にいい運動になるのではないかと思っている。今年度は400台を目標にしているが、開始が少し遅かったため、いまだに400台には達していない。これからも努力していき、今年度には何とか目標までの数字を出し、来年度はさらに増やして、各個人が実感を持ってCO<sub>2</sub>を減らすという運動をどんどん進めていきたいと思うので協力をお願いしたい。

## ○前田教授

進めていく上での課題や、こんなことがあればもっと広がっていくというようなものはあるか。

## ●永易さん（新居浜環境カウンセラー等交流会）

お年寄りも含めて自転車に乗る方が、昔に比べて少ない。自転車を持っている方もこのような楽しみがあれば、乗ってもらえる。ただ、行政などにも少しお願いしなければならないことは、インフラの安全面で、道路交通上の安全をいかにうまくするか、またそういうことの教育をして、皆さんにいかに普及していくか、その辺の兼ね合い

があると思うが、自らが参加して実感のできるいい運動だと自負している。

○前田教授

今後、自転車の利用者を増やすという話と走行環境を整えたり、乗る人の教育を進めていくことが必要かなと思う。岡本さんはどうか。

●岡本さん（新居浜工業高等専門学校 生物応用化学専攻）

私は生物応用化学専攻ということで生物応用化学科で行っている活動に関するのだが、本科の4年生のときに行う創造化学実験の中で私たち高専生が小中学生に向けて授業をするという出前授業の活動があり、その内容を考える中でSDGsに関する課題を自分たちで見つけて授業にしようとするもので、私たちの代ではCO<sub>2</sub>とは何なのか、今注目されている地球温暖化とは何なのかということをして授業の内容としている班があった。私たちが小中学生に教えることで、小中学生にも課題などがあることが分かるし、自分たちももっと理解を深めることができるなど、双方で学び合いができる。また、小中学生が実際に学んだことを家庭に持ち帰ったときに、家庭でCO<sub>2</sub>や地球温暖化の話をすることによって、子供だけではなく大人も意識が変わっていくようになる。

○前田教授

家庭に伝わっていくという話だが、伝わっていくことについての実感や、やってよかったという話はあるか。

●岡本さん（新居浜工業高等専門学校 生物応用化学専攻）

実際に実感することはあまりないが、小中学校からお礼の手紙が来たりするとやってよかったと思う。

○前田教授

より進めていくために、もっとこんな環境であればいいとか、こういうことがあればいいということはあるか。

●岡本さん（新居浜工業高等専門学校 生物応用化学専攻）

先ほどはCO<sub>2</sub>や環境問題についての話であったが、出前授業と言ってもいろいろなテーマがあり、小中学校側からそのテーマを選んでもらうことができるため、学校側から環境問題をやってほしいと言われてもらえると、もっと多くできるのではないかなと思う。



○前田教授

学校からのニーズが増えると、もっと活動できる場が広がっていくという感じかな。小野さんから手が挙がったので、どうぞ。

●小野さん（新居浜工業高等学校 2年生）

私たちは脱炭素の課題としてリサイクルの課題について話をする。現在、日本で排

出されているプラスチックのうち、85%がリサイクルできているとされている。そのうちの60%が、燃やしたときに発生する熱を回収するというサーマルリサイクルとなっている。しかし、このサーマルリサイクルでは燃やしたときにCO<sub>2</sub>が発生してしまう。そこで、私たちはCO<sub>2</sub>が発生するサーマルリサイクルではなく、CO<sub>2</sub>を発生させないマテリアルリサイクルを増やそうと考えた。そして、私たちがマテリアルリサイクルを行う過程でリサイクルに使うごみを拾いに行った。この写真を見ると、ボランティアの方たちがごみを拾ってくれているおかげで一見きれいな浜辺に見えるが、近くで見ると、まだまだマイクロプラスチックなどが落ちていることが分かる。これがその時の様子で、クラスみんなで1時間から2時間ごみを拾うとこんなにもごみが集まった。また、実際にボランティアの方もごみ拾いに来ていた。これはごみの集計表でペットボトルの蓋がとても多いことが分かるが、もっとも多かったのがカキの養殖用コードだった。新居浜市ではカキの養殖などは行われていないのに、なぜそのような物が落ちているのだろうか。それは近くの海から流れてきているからだと考えられる。これらのことから海は全てつながっており、自分たちの住んでいる地域でごみを捨てると、近くの海にまで悪影響を与えてしまうと考えられる。

●伊藤さん（新居浜工業高等学校 3年生）

ここからは私が発言させていただく。ま

ず、私たちは拾ってきたプラスチックのごみを加工して、令和4年に四国4県で開催されるインターハイのカウントダウンボードのゆるキャラを制作した。これらの作り方は、まず拾ってきたプラスチックの蓋を細かくはさみで切っていく、同じ色に分けて、それらを集めてアイロンで溶かしていく。そして温度が下がって冷えて固まるまで待ち、固まってきたら、はさみで細かく切っていく。もしも大きさが足りなかった場合は、塊同士の接合部分をアイロンで溶かして、冷やして、固めてだんだんと大きくしていく。そして出来上がった部品を組み合わせて完成となる。これは本館に掲示されているので、ぜひ見てもらいたい。

●赤瀬さん（新居浜工業高等学校 1年生）

ここからは私が発言させていただく。これはペットボトルのラベルを使って、しおりを作っている時の様子である。私たちの先輩方は、近隣の中学校やイオンモールのイベントでこの活動をしたこともあり、体験した方々からの感想は、とても好評だったそうである。こちらはプラスチックごみを加工して、ネクタイピンやブローチなどのアクセサリを作った写真である。元はペットボトルや麺つゆなどの蓋だが、少し加工すれば、右の写真のようにとってもきれいになる。これは本校の体験入学のときに中学生を対象に体験してもらったが、こちらも好評だった。これからも私たちが取り組んでいることに興味を持ってもらうため、精力的に活動していきたいと思う。



○前田教授

とても面白い活動をしていると思うが、この活動がもっと広がるために、こんなことがあればいいということはあるか。

●赤瀬さん（新居浜工業高等学校 1年生）

自分たちが精力的に積極的にこの活動を周りに広げていくことがあるが、この活動はまだ認知度が低く、体験した方々から周りに広がっているとは思っているものの、それでも認知度が全然足りていない状況であるため、チラシやパンフレットなどを作って、活用しながら広げていけたらいいと思う。

○前田教授

こういうことができるというパンフレットみたいなものを作って、たくさんの人に配れたらいいかなという感じか。

●赤瀬さん（新居浜工業高等学校 1年生）

そういうことである。

○前田教授

次に三宅さんはどうか。

●三宅さん（新居浜西高等学校 2年生）

新居浜西高校ではカーボンニュートラルと食の関わりについて調べた。まず、牛についてだが、牛からはメタンや一酸化二窒素が排出されることがわかっている。メタンはCO<sub>2</sub>の25倍の温室効果があり、一酸化二窒素に関しては、CO<sub>2</sub>の300倍の温室効果ガスがあることがわかっている。そこで、農家は牛の餌の中にカギケノリという海藻を混ぜて、メタンの排出を抑えたり、餌を使った排せつ物の温暖化対策などに取り組んでいる。次に、牛肉に取って代わる

代替肉についても調べた。代替肉は植物性タンパク質でできている食べ物で、3種類ある。1つ目は、クリーンミートで、牛や豚の筋肉細胞をラボで培養するものである。2つ目は、フェイクミートで、植物から作られている。3つ目は昆虫から作られているもので、昆虫と聞くと少し抵抗があると思うが、粉末などにして作られている。代替肉は、牛からの温室効果ガスなどの害から地球を守ることができると思われがちだが、デメリットもある。1つ目は価格が高いことである。2つ目は肉の栄養素が得られず、ベジタリアンは骨折しやすいという検証結果も出ている。3つ目は畜産業界の収入が減ることである。このようにメリットとデメリットを考慮した上で、代替肉のよさについても一度考え直していく必要があると思った。もう一つの食品ロスについても調べた。食品ロスは、日本で大きな問題となっており、温室効果が自動車並みにあることがわかっている。今から、食品ロスを減らすための取組について紹介したいと思う。



●河村さん（新居浜西高等学校 2年生）

私は授業で習ったことを基に、子供である私たちでもカーボンニュートラルに向けた取組についてできることはないかと考えた。家庭で出る食材の中で最も食品ロスになりやすい食材は野菜である。なぜなら保存が利かないからである。そこで私は野菜を長持ちさせる保存方法を調べた。私の家では、今まではレタスやキャベツなどは使ってから入っていた袋などに入れてそのまま冷蔵で保存していたが、レタスを丸ごと洗って水分を拭き取り、傷んでいる箇所は手でちぎっておく。そして、レタスの芯を手でくりぬき、少し湿らせたキッチンペーパーを丸めて、くりぬいた穴に詰め、レタス全体を新聞紙かラップでふんわりと包み冷蔵庫で保存する。些細なことだが、保存方法を少し変えることで倍以上の期間を保存することができた。また、私が家でこのような取組をすることで、野菜の保存期間を延ばせられたことだけでなく、母をはじめ家族もカーボンニュートラルについて、興味を持つようになった。

○前田教授

牛がメタンなどを出したりすること、また食品ロスを減らすという話があったが、そのような活動を今後していこうとするときに、もっとこういうことがあれば助かるみたいなことはあるか。

●三宅さん（新居浜西高等学校 2年生）

新居浜西高校では、2年生の保健の授業で環境問題について調べているが、1、3

年生は特に何もしていないと思うので、私たち生徒会が具体的な方法なども示して生徒に呼びかけることで、カーボンニュートラルの取組を新居浜西高校全体に広げていけるようにしていきたいと思う。

○前田教授

そのためにはこういう応援があれば助かるということはあるか。自分たちできちんとやり切るみたいなことか。

●三宅さん（新居浜西高等学校 2年生）

広めていく立場の私たちのほうがもっと取組について調べたり、このような場で学んだことを還元していきたい。また、自分たちだけでは厳しいと思ったときは、大人の方に聞くことも大事だと思う。

○前田教授

いろいろな人にサポートしてもらうことも大事だと思う。太田さん、生ごみの肥料化や環境家計簿をやる上でこういうサポート、支援があればいいということはあるか。

●太田会長（にいはま環境市民会議）

にいはま環境市民会議のメンバーは、ある程度仕事を終えているOBの方がほとんどであり、活動に関して、なかなか活動の幅が広がっていかない。今このように若い学生たちが環境に関して、注目している。このような若い人の力を逆に私たちが借りていかなければならないと思う。そして、昔からよく言われるが、OBの方やお年寄りの方などの先人の知恵を若い人たちに伝えていけば、もっとよりよい効果が得られるのではないかと考えている。

○前田教授

このような交流の場ができていけば、より伝わりやすくなるということか。

●太田会長（にいほま環境市民会議）

そうであるが、今の新居浜市にはこのような交流の場というものがないようなものを感じている。

○前田教授

今、市民側の話聞いて見えてきた課題などに対して、議会として応援ができることなどについて発言いただきたい。

●越智議員

皆さんの意見、活動を聞いていると、非常によく頑張っていると感じる。今回、皆さんの環境に対する活動や思いなどから市民の方に認識を改めてもらいたいということも考えて、このカーボンニュートラルというテーマを選んだのだが、カーボンニュートラルは大上段に振りかざすと、非常に大きなテーマになってしまうが、今日皆さんがされていることは、市民レベルでできることについて、知恵を出して、支援や活動をしていると感じた。議会としても皆さんの応援をしたいと思っており、新居浜市としても環境に対して市民レベルでもいいから、バックアップできればと考えている。永易さんから自転車の安全面の対策という話があり、ぜひ取り組んでいきたいと活動をしているが、まだまだ十分ではないところがあると思う。永易さん、その辺りはいかがか。



●永易さん（新居浜環境カウンセラー等交流会）

私たちがこのような活動をスタートして、ある会合でPRをした際に、お年寄りの参加者の中の1名が、自転車に乗るのは危なくて、とても乗ることができないと言われた。そのような方々には、安全になってから乗ってもらったらいいのだが、それまでに安全に乗れるような人から始めていこうとしているところであるため、安全に不安があるような人までは無理して広げずに、順繰りに広げていきたい。その間に、きっと市もうまくやってくれるだろうと思っている。交通安全に努められるような方が、この運動に入れる余力はたくさんあると思っているので、ぜひ後押ししていただければと思う。

○前田教授

このような活動をしていることをいろいろな形で広める応援もしていけたらいいと思う。

●藤田豊治議員

高専の岡本さんが小中学生たちに出前授業をされて、環境の勉強を実践していることはとてもいいことだと思う。私も十数年

前にイギリス、オランダ、ノルウェー、スウェーデン等に行ったときに、学校で環境教育をされて、ごみの分別等を家庭で子供と一緒に作業をして成果を上げていることを学んだ。また、親や家族が知らないことを子供から学ぶことが多いとも話されていた。工業高校や西高校の皆さんも授業などで広めていただきたいと思います。私たちができることについては、学校への出前授業を行う際の仲介、交渉等について、市議会から教育委員会に、なお一層協力してほしいと話すことだと思ふ。

#### ○前田教授

ぜひ学校関係者に協力依頼をしていただいて、広まっていくようなことができるといいと思ふ。ほかにはどうか。

#### ●篠原議員

西高校の三宅さんから提案された食品ロスについてだが、食べられるのに捨てられている食品ロスは、日本では年間 600 万トンほどある。これを国民一人当たりの一日に換算すると、おにぎり 2 個になる。毎日、国民一人一人がおにぎり 2 個を捨てていることになるが、それを半分にするだけで、廃棄物が少なくなりCO<sub>2</sub>も少なくなる。品物を多く買わない、品物を多く作らない、というようなことを市民の一人一人が心がけることによって、食品ロスの削減になると思ふので、ぜひ市民の皆さんに呼びかけてみたいと思ふ。

#### ○前田教授

運動として広がっていくようなことがで

きるといいと思ふ。

#### ●藤田誠一議員

私は、赤瀬さんが話されたネクタイピンが非常に気になった。私もSDGsやシトラスリボン、12月の赤い羽根などをつけている。最近はスーパークルビズとなり、11月から三、四か月はネクタイをする期間となるので、ぜひつけて協力したいと思ふが、在庫はどれくらいあるのか。



#### ●赤瀬さん（新居浜工業高等学校 1年生）

私もネクタイピンをつけているが、このネクタイピンを制作しているのは、環境科学部だけで、まだ学校全体では制作していない。在庫は20個程度あるが、これは販売するものではなく、自分で個性あふれるユニークな作品を作るほうが楽しいと思ふので、自分で作ってもらおうほうがいいと思ふ。

#### ○前田教授

頑張って自分で作ってくださいという話だが、作り方を皆さんにお知らせすることはできるのか。

#### ●赤瀬さん（新居浜工業高等学校 1年生）

私たちのマテリアルリサイクル例ということで、先ほど3年生の伊藤先輩がゆるキャラを作ったという話をしたと思ふが、こ

れとほぼ同じ作り方であり、これは型に入れて作っているが、型がなくても自分の好きな形に加工できるので、作り方を掲載したパンフレットや、ほかにもインターネットで知らせることができれば、広まっていくのではないかと考える。

#### ○前田教授

一緒に頑張るって作るというワークショップみたいなものが広がっていくと本当にいいと思った。ほかの皆さんはどうか。

#### ●黒田議員

皆さんから素晴らしい提案があったが、温室効果ガスの排出抑制には、ごみの減量なども含め、あらゆる部門での取組が考えられ、見える化が特に有効だと考えるが、その中でも特に取組の中でトップランナーになる事業を市民の皆様に選んでいただく、例えば日本一世帯の電気消費量が少ないまちづくりを目指すということなども市民の皆様の意識づけになるのではないかと考える。

#### ○前田教授

トップランナーになる企業も含めて、継承していくようなことができたらいいうことか。ほかにはどうか。

#### ●米谷議員

トップランナーという話もあったが、例えばレジ袋の有料化については、新居浜は全国的にも先進的な取組として、自慢してもいいような取組だと思う。レジ袋削減について、環境カウンセラーの皆さんや環境に関係のある市民の皆さんなど、環境市民

会議に参加した市民の皆さんが中心となって、他の市民の皆さんにも広げていく。市は、もちろん市の立場でバックアップしていくということがあると思う。先ほど、自転車の取組や若い人との交流についての話もあったと思うが、自転車の活動を広げるには、市が直接、市民の皆さんに呼びかけるよりは、市民の皆さんから市民に呼びかけていただいたり、若い人も巻き込んでいろいろな方法でやっていただきたい。活動には予算もいるだろうし、自転車道についても、夜になると大変暗いところもたくさんある。自転車のまちとして、安心して市民の皆さんに自転車を活用できるような環境づくりというところで、市民の皆さんから意見や課題を指摘していただく、そういう形で貢献していければと思う。

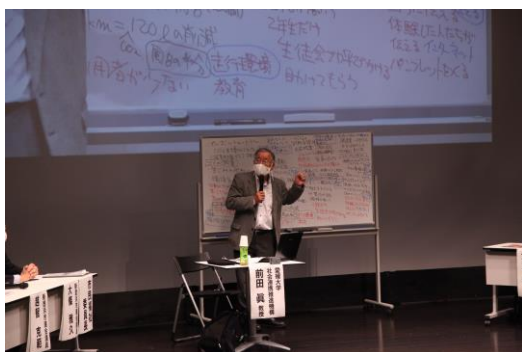
#### ●仙波議員

高校生の皆さん方、カウンセラーの方、環境市民会議の方の話を聞いて、このような発表をする機会、交流の場を作ることが私たちにできることではないかと思う。また、どんどん出てきていただき、このようなことをいろいろなところで発表していただく、皆さんが市民に直接呼びかけていただくことが、運動が長続きすることになると思っている。私も環境に関係のあるボランティアを25年くらいしているが、一人でも多くの方が関わる、関わらないということが、結果として、広がるか続くかということになると思っている。そのような意味で議会も協力していきたいと思う。

## まとめ

### ○前田教授

少し簡単なまとめになるが、皆さんがそれぞれしていることを市民の人たちにいかに共有してもらうか、知ってもらうかということがすごく大事で、なおかつ、それに参加してもらうためには、発表の場や交流の場を作っていくことがすごく大事だと思う。また、市民の人たちが市民に呼びかけたり、市が市民に呼びかけたりすることができる場所を用意しておくことがある。その場所でトップランナーになる企業を選ぶとか、市民の共感を呼ぶとか、学校関係者と話合いができるとか、そのようなことを用意することは、すごく大事になる。また、今日は話に出ていないが、再生可能エネルギーもある。CO<sub>2</sub>を削減する上では、太陽光発電や水力発電、木を使った木質バイオマス発電、また風力や潮力もある。そのようなことも交えながら、全体的な視点を持ってCO<sub>2</sub>の削減に取り組んでいくことも大事で、そのようなことも、交流の場でみんなで議論するようなことができなければいいということを思って、意見交換会を終わりたいと思う。





## 企画教育委員会

日時 令和3年11月18日(木) 19時55分～20時40分

<第2部 今後の公民館の在り方について >

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

(企画教育委員会)

- ・小野 辰夫議員(委員長)
- ・白川 誉議員(副委員長)
- ・近藤 司議員
- ・藤田 幸正議員
- ・永易 英寿議員
- ・高塚 広義議員
- ・神野 恭多議員
- ・小野 志保議員
- ・河内 優子議員

(新居浜市公民館連絡協議会)

- ・久石 保(会長、惣開公民館長)
- ・衣川 裕二(監査、中萩公民館長)

(口屋跡記念公民館運営審議会)

- ・坂上 公三(委員、新居浜市連合自治会長)

(新居浜市コミュニティ・スクール推進協議会)

- ・井川 昭二(会長、垣生小学校長)
- ・秋月 恭子(委員、新居浜市PTA連合会会長)



## 記録

### ●小野辰夫議員〈委員長趣旨説明〉



公民館を取り巻く環境は、昭和24年の社会教育法制定当初から、社会環境の大きな変化等により社会教育に期待される役割の多様化が見られるところである。新居浜市では、平成20年から地域主導型公民館の取組を進めているが、今年度から市内2校区において地域まちづくり組織のモデル事業を市民環境部が中心となって進めているといった状況であることから、今一度、今後の公民館の在り方ということで、公民館活動または地域活動の第一線で取り組まれている方々と共に、地域住民にとって最も身近な公共施設である公民館の今後の在るべき姿について、企画教育委員会の所管事項である社会教育、つどう、まなぶ、むすぶの視点から意見を交わし、考えていく機会としたいと思う。

### ○前田教授

最初に、このテーマについて、団体の皆さんから現状や御意見について発言をお願いします。

### ●衣川監査（新居浜市公民館連絡協議会）

中萩校区では、今年度から中萩校区地域まちづくり組織設立準備委員会を設け、自治会、公民館、社会福祉協議会等いろんな団体と協力して、支え合い、助け合う地域

づくりを目指して現在取り組んでいる。なお、先月ぐらいから中萩校区住民を対象に、校区のことをどのように思っているのか、どのようなニーズがあるのか、どのような課題を抱えているのかなどの把握のため、アンケートを校区内約9,000世帯に全戸配布して実施している。実施期間は、今月11月いっぱいを目標としているが、自治会に入っていない方に情報をどう広げるか、どうつながりをつくっていくか、どのように意見をくみ上げていくか、これは難しいテーマではあるが、このアンケート結果を踏まえて、今後の中萩公民館の在り方、運営を考えていきたいと思っている。

### ●久石会長（新居浜市公民館連絡協議会）

はっきり言うと、そのモデル地区2地区の結果を見ないと、今のところ動けない。私のところは、コロナ禍が落ち着き今では公民館活動も行えるようになり、先日の土曜日には、小学校の音楽会とタイアップしての文化祭を実施し、公民館に約1,000人の来場者があった。2階に幼稚園2園と小中学校の作品を展示し、みんなが公民館が開館してやっと使えるようになったと喜んでくれた。また、行事のお手伝いをしてくれる人も、若い人が多い。というのは、行事のプリントを配ったときにお手伝いできる人を募集したら、父兄の若い人がお手伝いの算段をしてくれる。惣開校区には婦人会がないが、それでも若い人がいろんなイベントのお手伝いをしてくれる。12月11日、12日の餅つきなど、いろいろ次のイベントも企画している。

### ○前田教授

最近なかなか若い人は参加しないと思うが、惣開公民館にはそういう活動に関心を

持ってもらえるような何か特別な理由があるのだろう。

#### ●坂上委員（口屋跡記念公民館運営審議会）

口屋跡記念公民館は、先ほどの中萩公民館と同様に、2年間の予定でモデル地区となっており、今月12日にアンケートを終了した。アンケートの回収数が約620だったと思う。今、公民館で精査して、いろんな問題と、それにどう対処するか、今月26日に運営審議会を開き、公民館としてどういう方向にもっていくかまとめていきたいと思う。また、小中学校のPTAも交えて話をしていこうということで、今、調整しており、今月26日に北中学校、宮西小学校両方の先生方を交えて、今後の在り方検討を進めたいと考えている。

#### ○前田教授

今、検討中ということで、具体的な方向性がなかなか見えにくい部分があるのかなと思う。

#### ●井川会長（新居浜市コミュニティ・スクール推進協議会）

私は、コミュニティ・スクール推進協議会の立場、また学校の立場という形で意見を述べさせてもらえればと思う。新居浜市内全ての小中学校が、コミュニティ・スクールに認定されている。これは地域と共にある特色ある学校づくりを推進するために、新居浜市が取り組んでいる形だが、やはり地域と共にあるということで考えると、公民館との関わりは、大変重要なポイントだと思う。現在の学校教育においては、本当にいろんな課題があり、それが多様化、複雑化している。学校だけでは解決できないものも、地域と共に、家庭と共に解決していくという方向性は、これから重要だと思

う。地域においては、やはり公民館が中心となろうかと思うが、今後の公民館の在り方というのは、まだまだ少し不透明なところがあり、コミュニティ・スクールの学校運営協議会が、新しい公民館の姿の中でどういう関連性を持ち、どういう位置づけとなっていくかも、これから考えていかなければならないと思っている。各学校の規模や地域性といったものによって、コミュニティ・スクールの活動は多種多様である。公民館活動においても、規模、地域性といったものが大きく関連してくるため、それぞれの公民館で、ベストな形が一体どういうものであるかが明確になって、新しい公民館の在り方を模索して、その中にコミュニティ・スクールとして学校なども連携しながら、よりよい子供づくりといった方向へ結び付けていけたらと考えている。



#### ●秋月委員（新居浜市コミュニティ・スクール推進協議会）

私は、現在、高津小学校のCSコーディネーターになって3年目になる。公民館を見てきて思ったことをお話しさせていただく。先日少し刺激を求めて惣開公民館に行ってきた。その時に、12月には子供たちのために、このようなイベントをすると主事さんが話してくれた。この地域は、皆さんが楽しんで協力しているように見えた。そ

の姿を見て、私も何かしたい、何かしようという奮起するような気持ちにさせてもらった。市内の小学校数校を除いては、公民館は小学校に隣接している。子供たちが小学校に入学して、地域と触れ合う初めての場所が公民館である。私たちPTAも、公民館との関わりでスタートすることになる。ただ、今の公民館は、年配の方の利用が多くても、いずれ公民館を支えるであろう私たちの世代が集えるような企画が少ないように感じる。若い人が足を向けてくれるような活動を、ぜひお願いしたい。そして、もっと自主的に動けるよう、公民館への年間予算の増額について検討をしてほしい。今の予算では限界があるというお話を聞いた。また、コミュニティ・スクールに関わる人材育成が急がれる。地域の方のCSへの理解について、CSって何というようの方が、まだまだ多い。コロナ禍になって、去年、学校が休校になり、公民館の利用ができなくなった時、一番心配になったのが子供たちの食事のことだった。給食が頼みの綱という子も実際にいる。食料支援をされている団体のことを、子供たちは知らない。一番身近にある公民館で、PTAや地域の人が数人協力すれば、密にならないように、駐車場で食事を渡すこともできたのではないかと、ものすごく考えさせられた。これは大きな課題である。公民館の利用方法は、まだまだある。そこには地域の力、PTAの力は不可欠で、この力が後の公民館を引っ張っていく、私たちの世代でやってやろうじゃないかと思ってもらえるような人を増やしていきたい。私のPTA活動は、もうあと数年で終わる。その後は、地域に戻って公民館での活動をしようと思っ

ている。来年度一步進んだ公民館を見せていただきたい。そのためにはもちろん私たちも協力させていただく。よろしく願います。

#### ○前田教授

やってやろうと思う人たちを増やす、育てるなどについて、どうしたら育っていくような感じになると思うか。

#### ●秋月委員（新居浜市コミュニティ・スクール推進協議会）

まずは、私自身が友達を巻き込んでいく、それを地域にお願いするのはなかなか難しいため、発信力をもっともって使って、自分が行動して、周りにこの人となら楽しいと思えるような人になることである。

#### ○前田教授

小さなところから、周りから呼びかけて、巻き込んで楽しさを伝えていくようなことができたらいという感じである。先ほど予算の話が出たが、公民館として、こういうことをしてくれたら、もっと活動しやすいといったことがあれば。

#### ●久石会長（新居浜市公民館連絡協議会）

公民館の予算について、コミュニティー関係などの予算の協力もあって惣開公民館の運営をしており、それほど困ったことはないと思う。

#### ○前田教授

今の予算の中で十分動けると。衣川さんも一緒か。

#### ●衣川監査（新居浜市公民館連絡協議会）

予算に関しては、同じ意見である。もし足りなくなれば、例えば、連合自治会長さんや社会福祉協議会支部長さんをお願いするなどして、何とか回っている。予算が多いに越したことはないが、現状では大丈夫

である。ただ、今の公民館では収益事業等は一切できないため、これからまちづくり云々となれば、いろいろな面で、少しでも販売などによって利益を得るような形にしたいかなと思っている。

#### ○前田教授

収益を上げるという話については、公民館では難しいと思うが、まちづくり組織では、そういうことも可能になるかなということ。公民館側の皆さんからお話をさせていただいたが、議会側からも、こんな応援ができるかもしれないなど、アドバイスも含めてお話いただければ。

#### ●永易議員

先ほど予算の話が出たが、高津校区は市内でも2番目に人口が多く、利用者の方も非常に多いため、人口や来館者数に応じた予算配分ができていないのが現状だと、公民館の方からもお伺いしている。利用者の状態に応じた予算配分を、市としても今後検討していかなければいけないと思っている。また、新たな学びの場づくりや講座などを実施するためには、新規の予算が要するため、学びの場をつくっていくような仕掛けができる予算の配分についても、各公民館の独自性や地域性に応じてしていくべきだと個人的に思っている。

#### ○前田教授

学校が開けられないときの対応も含め、子供たちの食事の世話などといった活動を広めていくことについては。

#### ●高塚議員

先ほど衣川館長からも話があったが、私も中萩校区に住んでおり、次の公民館への期待も含め、個人的に皆さんとの話の中で感じたこととして、なかなか行政のほうに

相談を持っていけないような様々な課題や地域の問題について、公民館に寄せられたり、個人的にお受けしたりするようなことが結構ある。そういう行政では対応できないようなところについて、多彩な人がいたり、様々な資源があつたりするところを掘り起こして、今後そういうところをしっかりとカバーできるような、公民館を核とした地域のコミュニティーづくりなどをやっていきたいと考えている。先ほど話があったが、若い人がなかなか育っていないということで、高齢化によって活動者も少なくなるという課題もあるため、皆さんが公民館活動に、気軽に積極的に取り組んでいけるような仕掛けづくりを、今後やっていくべきだと考えている。

#### ○前田教授

公民館は、行政ではできないような相談事が持ち込まれるという話もあったが、今回アンケートを取ったことにより、その辺のニーズが少し見えてくるかもしれないという気がする。まだ途中なのではつきりはしていないと思うが、感触的にどうか。

#### ●衣川監査（新居浜市公民館連絡協議会）

中萩校区では、昨日聞いた人もいるかもしれないが、このあかがねミュージアム内にある新居浜FMに、4時から5時までの1時間、主事補が出演させてもらった。ちょうど新居浜FMの方が中萩の人で、アンケートが回ってきて、いい取組ではないかということで、新居浜FMの放送で情報発信したらいいのではと、昨日出演させていただいた。アンケートについては、ウェブ形式でも回答できるようにしたが、今のアンケート回答数 2,500 ぐらいのうち、ウェブ回答は 300 弱と少ない。ウェブ回答に非

常に期待していたが、まだまだ情報発信が少ないと考えさせられている。

#### ○前田教授

ウェブ回答もしているということで、とても先進的なアンケートの仕方である。

#### ●小野辰夫議員

予算の関係もあるが、若年層があまり利用していないという意見があった。例えば、浮島と高津を比較すると、浮島では七草がゆの行事をしており、子供たちが十何人も集まっている。これは高津では実施していない。高津では、40 サークルの利用があり、夏休みに小中学生の学習教室、青少年の防災キャンプをしているということで、地域差が非常に大きいと言えると思う。各公民館の弱い部分は、皆さんの中で参考にし、こういう部分が私たちは弱いため、この部分を強化しよう、こういうことをやろうなどというのは、地域によって違うと思う。そういう意見交換をしたほうがいいのではないか。例えば、高津では夏祭りの盆踊りをしている、浮島では行っていない。縁日をやっているところとやっていないところがある。子供たちを集めるためには、地域性もあるが、いろんなことをするなど、参考にすべきところが多いのではないかと私は思う。

#### ○前田教授

情報共有も含め、公民館同士の交流の機会はあるのか。

#### ●秋月委員（新居浜市コミュニティ・スクール推進協議会）

今年度、初めてしめ縄作りを12月末にさせてもらうが、その作り方について、浮島公民館に御協力いただいて、12月初めに教えていただくという交流を今回持つことが

できた。

#### ○前田教授

公民館と学校との交流はあると思うが、公民館同士が意見交換するなどといったことは、あまりないのか。

#### ●衣川監査（新居浜市公民館連絡協議会）

月に1回館長会を開催しており、そういう面では、私たちの公民館では何をしているといった交流はある。また、18 公民館で館報を発行しており、それを見れば、どうしているかということも分かるため、そういったことの話合いは館長会でやっている。

#### ○前田教授

そういう場はあるということ。

#### ●藤田幸正議員

公民館の交流について、皆さんのお話にもあったように、地域それぞれの特徴がある。新居浜市内でも海があつて、平地があつて、山があるなど、その地域それぞれにあるものを、公民館活動でいろいろ事業をする中で、お互いに連絡、交流し合っている。全てがうまくいくわけではないが、地域それぞれの特徴を生かした交流を、今までもしておられると思う。そういったことから、徐々に広がっていけばいいのではないかと思う。



●近藤議員

公民館同士の交流の話が出たが、神郷校区の場合、中学校が川東中学校、小学校は神郷小学校ということで、公民館運営審議会の中に学校運営協議会も一緒に入り、大体同じようなメンバーになっている。川東中学校の校長先生、高津小学校の校長先生もおられるが、川東中学校の関係で言うと、多喜浜、垣生、大島、神郷の4地区が関係しているため、コミュニティ・スクール関係での交流などは、今後行っていけないのではないかと思う。

●井川会長（新居浜市コミュニティ・スクール推進協議会）

川東中校区については、4校から5校の小学校が合同になっていると思う。小学校は、それぞれの公民館との関わりが強く、コミュニティ・スクールも結構すんなりといろんなことができるし、実際されていると思う。ただ、川東中学校の先生に聞くと、中学校になると難しいとのことである。一つの中学校で関連する公民館が4館となると、地域の力を借りるとなった場合、全ての公民館と連絡調整が必要となってくるといった難しさがある。それに対して、例えば中萩や角野のように一小一中の所は、小中が連携したコミュニティ・スクールを進めやすいし、公民館との関わりも大変スムーズにいく。これも学校の地域性が関連してくると思う。

○前田教授

中学校だと1校当たり4公民館ぐらいに願うような形になるという感じ。

●坂上委員（口屋跡記念公民館運営審議会）

口屋跡記念公民館の運営審議会では、小中学校の校長先生、PTAの先生も参加し

ている。口屋跡記念公民館の場合は、北中校区が新居浜と宮西の2校区になるため、2校区の公民館が話し合っ、いろいろな行事に関して、今までは文化祭も、去年は宮西、今年是新居浜というような形で実施していたが、今は解決し各校区で行っている。北中学校に関しても、両方の運営審議会であまよくやっている。

○前田教授

そういう形で一定のルールができているのはいいと思う。

●井川会長（新居浜市コミュニティ・スクール推進協議会）

先ほどの件について、先日、川東中学校の学校運営協議会があり、この会のメンバーは、校区内の小学校長、公民館長が集まった組織となっている。

●神野議員

地域それぞれ、同じ新居浜のため、大きな課題で言うと共通する部分は多々あるとは感じるが、その中のボトムネックになる部分であったり、そこにいる人材であったりというところでは、大きな違いが出てくる。その中で、その地域の特性に合ったものを今後つくり上げていくことを期待している中ではあるが、先ほど校長先生が言われたコミュニティ・スクールの中の公民館の位置づけについて、新居浜市が大々的に打ち上げたコミュニティ・スクールが、今回、子供が中心ではなく、公民館が中心になって、主導権の争いが起こるなどは、今後危惧する点の一つであり、その辺りうまく進めていただければと感じる。あくまでも子供を真ん中に、子は地域の宝であるため、その辺りを大事にしていきたいと感じている。





#### ○前田教授

逆にそういうところをどうサポートできるかということもあるかと思う。全部預けるのではなく、一緒にということを考えていけたらいいと思う。そろそろ時間が来ているが、もう一つ、先ほどの人材育成について、若い人にどう受渡しをしていくのかということもあると思うが、人材育成で新しい人たちをどういうふうに生み出していくかということについて、何か考えておられることはあるか。

#### ●久石会長（新居浜市公民館連絡協議会）

人材育成というのは本当に難しいが、私たちの公民館では、イベントをするたびに学校とタイアップして、児童全員に渡すプリントの下に、必ずお手伝いの募集を記載している。そういう方が公民館に来て、行事をして楽しかったら、次々とイベントのたびに来てくれる。そのようにして輪が広がるため、その輪で広げるしか人材育成はできない。私たちの校区では、若い人からお年寄りまで、結構うまくいっていると思う。

#### ○前田教授

こういうことをしているから、若い人たちの参加も多いのかなと思う。

#### ●衣川監査（新居浜市公民館連絡協議会）

若い力というか、中萩には7台の太鼓台

があり、1台20人集まっても140人ということで、月1回の会には100人近い青年団が集まってくれるため、力的には十分で、先日の文化祭でも、搬入、搬出などは助かっている。ただ、育成となると、少し疑問があるような気がする。今度の防災訓練にしても、中萩校区は5年ほど前から各ブースの講師について、中学生に頼むようにした。中学生が関わることにより、防災訓練がスムーズにいくような気がしている。そういう中学生が、高校生になっても地域の防災訓練に参加してくれるようなことを希望している。

#### ●坂上委員（口屋跡記念公民館運営審議会）

宮西校区には5台の太鼓台があり、青年団が主体となってやっている。今回のアンケートでは、青年団からの回答が少なく、自治会を通じて、もう一度出してほしいとお願いしている。また、宮西校区はマンションがとても多く、自治会加入率も新居浜で一番低い。今回のアンケートも、マンションにも全部配布したが、マンションからの回収率も悪いということで、26日の運営審議会等でも、この話題が既に出ているため、どうしたらいいかと考えている。防災訓練や文化祭、餅つきなどいろいろな行事に関しては、PTAなどの参加をもらい、なるべく若い人に参加してほしいという形にしている。

#### ○前田教授

積極的に呼びかけながら進めていかないといけないのかなと思う。

#### ●井川会長（新居浜市コミュニティ・スクール推進協議会）

人材育成となると、結局は公民館活動を通して、子供、親世代、高齢者の方、3者

が集まれる活動や機会がたくさん取れば、それだけ人と人とのつながりが増えて、次の世代へというような形に結びつくのではないかと思う。垣生小学校の立場として、垣生公民館では、垣生山の遊歩道整備を春と秋に行っている。これは小学生、中学生、PTA、青年団、垣生山のよもだ会、公民館関係者、全てが集まって継続されている。遊歩道が整備され、展望台なども素敵になっている。そういった活動や、公民館でイルミネーションをしており、そこにも子供、PTA世代、地域の方が集まるような機会があるため、最終的には人材育成に結びついていくのではないかと考えている。

#### ○前田教授

秋月さん、先ほど巻き込むといった話があったが、それ以外で何か御意見があれば。

#### ●秋月委員（新居浜市コミュニティ・スクール推進協議会）

高津小学校がCSになって3年目だが、夏休みの学習会も3年目を迎えた。今年の夏休みも、何とか5日間行うことができた。年々子供たちの参加人数も増えてきて、地域の方の御協力もいただいている。中には小学校の読み聞かせに来られている地域の方が5、6人、当日もお手伝いに来られたり、PTAの役員も毎日毎日入れ替わりで見守りに来てくれたりしている。ただ、今の人数では本当に少なく、PTA活動を積極的にやっている人は、周りから少し変わっているというように見られがちだが、その中でも私の場合は、姉さんがやっているから僕らもやる、私らもやると言ってくれる保護者の方もおり、少しずつ増やしていくしかないと思っている。また、私ももっと地域の人と懇意になって、もう少し助け

て欲しいと言えるような人になっていきたいと思う。

#### ○前田教授

もう時間が来ているが、人材育成について御意見などあれば。

#### ●白川議員

先ほど秋月さんが言われていたように、巻き込むことについては、中心となって動く人材、それこそ館長さんを含めて皆さん大変な思いをされていると思うが、あまり難しく考えるよりも、例えば、公民館をお店に見立てたとき、通常のお店の商売だったら新規のお客さんを増やすか、固定客にするかといったところだと思う。ただ、固定客というのは、普段使っている人に来てもらうためには何をしたらいいか、新規のお客さんを見つけるためには、今まで来ていない人について、どうやったら来てくれるのかといったところは、若い人だけの声でも駄目だろうと思う。地域の中心となる場所になるためには、みんなが分かり合うというか、私は個人的にまちづくりをしていく上では、エゴというか、押しつけるのはあまりよくないと思うため、みんながフラットに、幅広い世代で考えるように、動きやすいように、我々も動いていきたいと思う。

#### ●小野辰夫議員

開かれた公民館ということで、やはり皆さんに公民館を使っただきたいと思うが、今、自治会との兼ね合いというのはあるか。例えば、自治会に加入していないから公民館を使いつらいといったことはないか。

#### ●坂上委員（口屋跡記念公民館運営審議会）

それはない。自治会に入っていない人は、



もともと公民館にも来にくいというか、やはり入っている人が主体ではある。ただ、公民館を使いづらいというようなことはない。

## まとめ

### ○前田教授

私の進行も悪く少し焦点が絞りにくかったと思うが、これからの公民館の在り方を考えたときに、少し原点に戻って、そこにどうやって集まっていくのか、どうやって学んでいくのか、みんなを結び合っていくような形ができているのか、やはりそこが基本なのかなという気がする。先ほど開かれた公民館という話もあったが、そこにいろんな人が立ち寄りやすい、そういう公民館であってほしいと思う。また、若い人というのは、細かく声をかけながら、一緒に参加してもらえようことをしながら、じっくり呼びかけ続けていけないといけない部分があるのかなと思った。なおかつ、地区の事情によって全然違って来る部分もあるため、一定のやり方で通用するかと言うと、多分そうではないのかなという気がする。それぞれの公民館ごとに工夫したやり方を周りからどう応援できるかというのも、考えていけない部分があるかと思う。一つの公式や制度で対応するという話ではなく、公民館そのものの動きを個別に支援していくような形が、今後取れていけたらいいのかなと思った。



■閉会挨拶 市議会副議長 藤田 誠一



## 経済建設委員会

日時 令和3年11月19日（金）19時00分～20時00分



- 司会 市議会議員 藤田 幸正
- 開会挨拶 市議会議長 山本 健十郎

<魅力ある街づくりについて >

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

（経済建設委員会）

- ・田窪 秀道議員（委員長）
- ・伊藤 嘉秀議員（副委員長）
- ・山本 健十郎議員
- ・伊藤 優子議員
- ・藤原 雅彦議員
- ・伊藤 謙司議員
- ・井谷 幸恵議員
- ・合田 晋一郎議員

（新居浜機械産業協同組合）

- ・小野 雄史（理事長、株式会社小野鐵工所社長）
- ・近藤 彰一（副理事長、株式会社近藤工作所社長）
- ・萩尾 広典（副理事長、萩尾高圧容器株式会社社長）
- ・西岡 圭（副理事長、株式会社西岡鉄工所社長）
- ・稲見 孝介（青年部会長、有限会社稲見工作所社長）
- ・藤川 祐司（事務局長）

## 記録

### ●田窪議員〈委員長主旨説明〉



本市は住友の企業城下町として、また、ものづくりのまちとしての知名度が高い反面、中小零細企業が抱える諸問題も多く、技術伝承面や後継者の育成、事業継承不足、人材不足、資金力不足等数多くある。

行政側支援として、新居浜市中小企業振興条例や企業立地促進条例等による補助金や奨励金、また創業支援やデジタル化支援、資金繰り支援等手厚く支援されているものの、割と身近に使える補助金が少ないとも個人的には感じている。長期にわたる新型コロナウイルスにより疲弊した日々が続く中、市内ものづくり企業にとっての目指すべき指標となる「魅力ある街」とは、一体どのようなものか、現状何が不足しているのかなど、新居浜機械産業協同組合傘下の経営者の生の声をお聞きしながら、今後のまちづくりの参考にしたいと思う。

### ○前田教授

このテーマについて団体の皆さんから現状や意見等、御発言をお願いします。

### ●小野理事長（新居浜機械産業協同組合）

本題に入る前に私たちの組合を簡単に紹

介する。組合は、戦後から昭和の末期まで、住友化学、住友重機械系2組合と両組合に所属していない組合の合計3つの組合があった。経済の発展とともに共同生産などの共同事業の重要性が低くなり、組合のスケールメリットを生かすため、昭和63年5月に3つの組合が合併し、新居浜機械産業協同組合が設立された。設立から33年となっている。現在、組合員79社、構内下請けを含めると総従業員は2,827人を擁している。総売上高は621億円である。組合は、組合員の経営体質の向上を図るため、各種の共同事業を行っている。これは組合のホームページの画面であるが、ご存知のとおりマイントピア別子の観光列車を共同受注して製作したのが皆さんの記憶に残っていることと思う。設立当初は、住友企業との取引が全体の6割ほどあったが、現在は3割強と取引先は国内全域、一部は海外との取引を拡大している。これはエリア毎の取引先数のグラフだが、東予地域の取引先は全体の27%となっている。失われた30年の中にあって、組合の取引先の地域を拡大する積極的な経営姿勢を見て取れる。個々の組合員の努力は言うまでもないが、組合の役割を下支えしているものと考えている。以上が組合の概要であるが、本日の会において私どもが考えていることが、市民の皆さんに上手に伝わるよう組合幹部が集まり多くの時間を割いて話をした。最終的にテーマを魅力ある街づくりとさせていただいた。はじめに西岡副理事長から組合の課題と要

望について話をさせていただけたらと思っている。

●西岡副理事長（新居浜機械産業協同組合）

まず、組合が抱えている課題や現状について、データや事例を含めてご紹介する。まず、こちらが組合の従業員数と売上高を示したものである。赤のグラフが設立からの売上高の推移ということになる。近似直線を示しているが、徐々にではあるが右肩上がりの傾向となっている。青字が従業員数の推移ということになる。こちらは設立から徐々に減少傾向にあるということになる。これは、見方としては、一つは各社が合理化や自動化、効率化を図りながら、少ない人数でも同じ売上高を上げられるような状況になってきたという側面はあろうかと思うが、逆に考えてみると、このグラフは組合が本年7月に組合内企業に対して実施したアンケートの結果であるが、従業員の過不足感を聞いたものである。特に本年などは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、経営的に苦しい企業が多い中ではあるが、それでも昨年よりも従業員が不足していると答えた企業が4社ほど増えている。こういう傾向は、ここ近年ずっと続いている状況となっており、やはり人手不足の解消というのが、我々組合企業にとって非常に大きな課題かと捉えている。逆に考えると、人の確保がしっかりできると、まだ今以上に業界、各企業の発展はできると考えている。そういう状況を打破するため、組合では3年ほど前から無料職業紹介所を組合に開設したり、ホームページによるリクルート情報の発信、また周辺の市町村への高校訪問並びにリクルートチラシの配布などを行ったりしている。ただ、大きく成果

が出ているかということ 100%成果が出ているとは言い切れない。特に市外から人を呼ぶということになると、やはり住まいの問題が大きな課題となってくる。そこで、組合では平成31年4月に松原町にある旧雇用促進住宅を組合社宅として借り上げて、組合員に安価で提供するというようなことを新居浜市と賃貸契約を結び、現在運用しているような状況である。ただ、今現在の入居は、実際は3部屋しかできていない状況である。これは、新型コロナウイルス感染症の対応で、緊急的に入居者を入れなければならない状況もあり、当初はもう少し多くの部屋を提供できるような状況であったが、現状は3部屋のみ入居となっている。ただ、かなりこの建物自体は外観的にも傷んでいる部分も多くある。特に市外から来られた方が新しく生活をする拠点として考える上では、やはり、なかなかちよつとこういった外観の所では、パッと見で拒否されてしまうような場合もあるので、まず直近の対応課題としては、こちらの住宅の外観並びに給排水等のリフォームを実施し、外部から来た人でも安心して住めるような環境づくりをなんとか実現できないかと考えているところである。また、特に中小企業は、外部から来た人に対して、例えば住宅手当を多く支払って住ませるのも難しいことを考えると、ある程度安価で住める環境づくりというのを行政と一緒にやってぜひ進めていきたいと考えている。当然ながら、住宅だけ整備すればよいということではないので、組合企業自体が若い人に興味を持ってもらったり、魅力ある企業になっていったりするのは、当然必要なことであると思うため、そこに向けてもいろ

いろと取組を行っている。またこれは、組合だけで解決できることではないが、今回のテーマにある魅力ある街づくりという意味では、例えば道路整備の問題や、新居浜は非常に工業用地自体がなく、新しいことをしようと思ってもなかなか進出する土地自体がないということや、企業誘致をする上で、どうしても土地の面を含めて制約が多いというようなところがある。このようなことは行政と一体となりながら、街のランドデザインというような観点で、いろいろ取り組んでいくことが必要であると思うので、そこらあたりを、今日いろいろ意見交換させていただきながら、少しでも解決できる方向に進めれば、と考えている。

#### ○前田教授

今、人材確保、人手不足、それを解消するための環境をどう作っていくのかというお話をいただいた。もう少し中身を深めていければと思うが、先程人材不足という話があった。そうすると、どんな人材がいたらいいと思うか。どなたでもいいのでご発言をお願いします。

#### ●萩尾副理事長（新居浜機械産業協同組合）



我々はものづくりに携わる業界である。どこの業界も同じかもしれないが、求める人材像としては、例えば元気がいいとか、チャレンジする気持ちがあるとか、そういつ

た主体性があるとかいろいろよい言葉を挙げればいくらでもあるが、そういう若さ、若い人に代表されるような属性、そのような人を求めている。特に製造業だと、その傾向ではないかと思う。

#### ○前田教授

ものづくり企業に、女性の割合は今増えてきているか。

#### ●稲見青年部会長（新居浜機械産業協同組合）

最近では、作業所内でもだいぶ女性が増えてきている。

#### ○前田教授

女性でも活躍できる場があると考えてもよい感じか。女性も入ってこられるような職場になってきているというのは、あるかと思う。では、市内外からという話があったが、市外から呼び込むことが大事なのか。

#### ●西岡副理事長（新居浜機械産業協同組合）

当然、市内の人材が獲得できればよいのだが、なかなかターゲットを市内だけに絞っていたのでは、対象となる子供の数自体が減っているのでは、地域を広げながら雇用していかないと、なかなか人材確保できない状況になっているのは間違いないかと思う。

#### ○前田教授

例えば、高校生を含め、高専などの卒業生というのは、組合傘下の企業に就職していることは多いのか。

#### ●西岡副理事長（新居浜機械産業協同組合）

正直に申し上げますと、私たち組合の企業に入ってくれる新卒の学生さんは、年々減少傾向にある。これは市内に就職をする場合でも、住友各社に入られる場合が非常に多くなってきている状況があるのと、進学される生徒さんも、以前に比べると比率が

高くなっているという側面もあると考える。新居浜工業高校とはコンタクトを取りながら話し合いをさせていただく場もあるが、組合企業に入ってくれる生徒の数は、年を追う毎に減ってきている状況である。

#### ○前田教授

そういう人たちを呼び込むために、ものづくり企業の魅力を伝えていく、発信していくことに関してはどのようなことをされているか。

#### ●西岡副理事長（新居浜機械産業協同組合）

資料を交えて話をさせていただく。ひとつは冒頭の理事長の方から話があったように、マイントピア別子の観光列車を組合全体で製作した。どうしても私たちが普段している仕事というのは、まさにB T o Bの企業向けの仕事が多くて、一般の方にどのような仕事をしているかを知っていただける機会がなかなか少ないということで、一般の方の目に触れるこういう観光列車を作ることで、組合にはこういう技術があるというアピールをするのには、非常に役立ったと考えている。その他に、ちょうど今開催中であるが、東予ものづくりフェスをイオン新居浜で開催しており、各企業の技術をブースで展示したり、この日曜日に開催されるが、空き缶コプターという空き缶を切って、2階から落として、滑空時間を競うような競技などをしたりして、ものづくりに触れ合うような仕組みやイベントなどに組合企業が積極的に参加しながら、こういう企業があるというのを、どんどん知ってもらえる場は作っている。こちらも2年程前に県事業として開催されたが、えひめさんさん物語の中でアーティストinファクトリーというイベントがあり、アーティスト

と各企業が連携しながら、各社が持っている技術を知ってもらうために、ちょっとアーティスティックな感覚を入れたものづくりをやったというようなイベントもしている。また、このイベントの流れで、今アウトドアブームというのもあり、来年3月には当社が所属している新居浜重機械工業団地という工場群の中で、ロケットストロブというのを制作して、一般の方に各社ができるものづくり技術を見ていただいたり、アウトドアと絡めたようなイベント実施を考えていたりするので、できるだけ各社がやっていることを一般の方に触れてもらう、知ってもらう、そういうところには積極的に動いている現状である。



#### ○前田教授

実施後の反響はどうだったか。

#### ●西岡副理事長（新居浜機械産業協同組合）

こういうことができるのを知らなかったという声を非常に多くいただき、直接的にそれが雇用まで結びついたかどうかというのはあるが、各社が持っている技術を知ってもらえる機会がなかなかないので、こういうことができるのはすごい、という声をいただいたのは事実である。

#### ○前田教授

そういう活動をしながらか、自分たちの企業、ものづくりの魅力を伝える取組をされ



ていると思うが、先程の住宅の話は課題という形で、今の組合住宅も老朽化していて、写真を見るとなかなか住もうと思にくい感じの写真が並んでいたような気がするが、例えば、魅力を伝えるときに、こういうことがあればもっと魅力が伝わるのに、というようなことはあるか。こういうことがもっとできたらいいのにみたいなことは。

#### ●近藤副理事長（新居浜機械産業協同組合）

私の会社で以前、宇和島から希望されて就職してきた子がいた。宇和島だと一般的に新居浜をあまり知らないものである。大阪や広島、東京ということになるようで、同じ愛媛県内なのに新居浜をあまり知らない。新居浜って恐ろしい町よねというイメージがあるらしい。その時に親御さんと話をしていて非常に強く感じたのが、宇和島から新居浜に来させて高校を出てはじめて一人暮らしをさせる、住むところはアパートを借りればなんとかなるのだろうが、食事の心配をものすごくされていた。ちゃんと食べているか何回も心配していた。食事を親御さんは心配されるので、市外から新居浜市に就職をと考えた時に、先方の家族の方からすると、新居浜市に行くと、ちゃんと住むところも食べるのも心配は不要だというのがあれば、非常に大きな魅力になるのではないかと感じた。

#### ○前田教授

衣食住の食、住が十分提供できる町であるというイメージがあればよい感じか。少し団体の皆さんからそういう話が出ているが、では議会側はどうか。例えば、新居浜の町のイメージなどは。ものづくりの町というのは、怖いイメージがあるのかもしれないが、そういうところでもっとこういう

ことができるのではないかと、とか先程の人手不足について、改善案や意見などがあれば。

#### ●合田議員

今回、組合の活動等を報告いただき、組合共同で別子1号を製作されたり、ものづくりフェスなどいろいろ取り組まれたりする中で、今回のテーマとして魅力ある街づくりについてという話が挙がってきたと。それに関しては、組合の中ではリクルートにしても、市、県とも連携しているいろいろ順調に取り組まれていると。その中で、やはり何が課題かとなったときに、魅力ある街づくりについてというのが挙がってきたのだと思う。先ほど言われていたイメージというのは、まさに、新居浜市の魅力を高める活動をしていくのは私たちだと思うので、今日は45分間の時間であるが、いろいろな話をし、住環境について、道の問題、企業用地の問題などについてを課題として捉えて、全体的な魅力ある街づくりというものを考えていく場としたい。今回のことをきっかけに、今後、いろいろな形で話をしていければと思う。まさに、街づくりについて考えていくのが、私どもの仕事だと考えている。

#### ●藤原議員

魅力ある街づくりということで、なかなか答えが出るようでないような難しい問題であると思う。はっきり言って、僕も宇和島のことはあまり知らないが、これはお互い様だと思う。先ほど言われた親御さんが子供さんの食事の心配をする、これは社会人じゃなくても学生であったとしても、これはどこに行っても親としては当然のことかと思う。今日、魅力ある街づくりにつ

いての結論はなかなか出ないかもしれないが、ここでお聞きしたいのは、先程、衣食住の住環境について、確かに松原団地を写真で見ると、あそこには住みたくないという気がした。かといって、皆様が要望を上げている、市で社員住宅という話も聞いてはいるが、これも大変予算のかかることで、もしそれをすれば、うちも建ててくれ、うちも建ててくれとなる恐れがある。そこで、議会として考えたのが、今空き家がたくさんある。新居浜市のホームページにも、空き家バンクというのがある。ここに市に間に入ってもらって、なんとかマッチングできないかと。そして家賃に関して、市から資料をもらったが、その中に家賃補助という項目もあるので、今あるもの、今ある施策でなんとかしていけないかなという気がしている。まだまだきれいな空き家はある。そして、住まないと空き家は朽ち果てていくので、その辺のことをしっかりやっていけば、少しは前進するのではないかと思う。

#### ○前田教授

空き家の活用というような意見が出てきたが、それについては皆さんどうか。

#### ●萩尾副理事長（新居浜機械産業協同組合）

いいアイデアだと思う。やはり、取りあえずは住む場所というのは、我々企業を知っていただいて、興味を持っていただき、その次は仕事としてここに住むかというステップになる。ここに住むか、という時にはお金のこともあるが、住むところはこういう場所が具体的にある、よかったらここならいくらで住めるということをお伝えできるのは非常にメリットであると思う。組合のことを考えると、じゃあ順番でいい物

件があったじゃないかというような話もあるかもしれないが、それはさておき、そういう資産、空き家を持っている人も使わなければ老朽化する、そして我々は住みたい、従業員を引っ張ってきたい、これはウィン・ウィンの非常にいいアイデアだと思って聞かせていただいた。

#### ●伊藤優子議員

先ほど松原団地の状況を見たが、市だけで実施するのは非常に難しいので、組合と一緒にやっていけばどうか。宇和島などへ会社説明などに行かれているのなら、ぜひこちらにも見学ツアーで来てもらって、仕事してもらってはどうか。それに対して、市が全額ではないにしても補助をしてはどうか。



#### ●藤川事務局長（新居浜機械産業協同組合）

3年ほど前から、組合の中で人材確保推進事業というのをしており、3年前に今言われたような宇和島や南予、高知などの新居浜から1時間ちょっとで行けるような範囲の高校を全部回った。先生からお話を聞く中で、やはり新居浜の認知度が低いのと、今まで住友が、八幡浜工業に3年前に初めて求人を出したというような状況で、住友の求人が市内でうまくいっていた状況の中でそのような傾向が見えた。今の時点で求人をして、なかなか遠方で難しい。2年



前からこの住友近郊、住友ブランド、新居浜ブランドが残っているうちに求人を図ろうということで、組合としては、そういう方向で一生懸命動いている所である。そのためにも、住宅は非常に大事であると考えている。

●萩尾副理事長（新居浜機械産業協同組合）

ちょっと整理をさせていただきたいが、ゲンバ男子や新居浜ものづくりブランドなども含めて、市役所の支援策の中で、不特定多数の方に知っていただくこと、高校への訪問、パンフレット作成、空き缶コプターや縁日プロジェクトなどイベント的なもの、こういうのは一つのきっかけであって、知っていただく入口である。そして、一歩先へ進むと、ではここを選ぶか、ここで仕事をするか、ということになる。ここまでたどり着いて失敗することがある、それは何かと言うと住居である。実例があったのだが、さらに次のステップ、わが社のことであるが、大学卒の女性の方に営業職として入っていただき、住居も整備した。2年間一生懸命頑張ってくれて、お客様の受けもすごくよくて、これからこの子はとても伸びるかなと思っていたが、結局は辞めてしまった。それはなぜかと言うと、仕事には満足しているが、その子は松山大学の出身だったので、友達もいないし、住んでいてちょっと、という話だった。つまり、ステップがいろいろあって、知っていただくステップ、選んでいただくステップ、定住していただくステップがあって、定住となるとすごく課題が大きくなってしまふのだが、今我々が感じているのは、選ぶ、住む、そして、それを止めるような魅力が会社側にも、町そのものにも必要で、町そのもの

に魅力がないと離れてしまうと考えている。知っていただく部分は、イベントやインターンシップなどで触れ合う時間を取っているの、次のステップの選んでここで仕事をする、ここに住むというところだと思う。

○前田教授

仕事の面から言うと、仕事をし続けることができるかどうか、離職率を下げるができるのは仕事の問題ではなくて、町の問題だということか。

●萩尾副理事長（新居浜機械産業協同組合）

相互に関係あると思う。

○前田教授

町のイメージをどう上げていくのかとか、本当に住みやすい町にしていくのが大事ではないかという意見が出ているがどうか。

●伊藤謙司議員

今おっしゃられていた、地域のコミュニティの話になると、市内にいろいろな市民グループがたくさんある。その中に女性なども入っていただけたら、もう少し友達も増えたのではないかと思う。就職して知人、友人がいないところでやるのが大変なのは理解できる。逆に言えば、そういうところに市がいろいろなグループに声掛けをして、あそこに女性の社員もいるよなどの声掛けをし、市が真ん中にいて話をするというのが、やはりよいのではないか。女性が一人でいろいろなところに出て行って友達を作るといいうのは、なかなかできないのではないかと思う。そういうのをバックアップしていくのが行政ではないかと思う。

○前田教授

よい視点が出たと思うが、例えば、市民活動や公民館活動など、そういった趣味の活動に参加していくようなきっかけができ

たらしいというような意見もでていたのだが、企業側で、そういう事に向けて何かしていることはあるか。無いのであれば、そこを今後進めていけるようなことができれば良いのではないかと思うが、例えば、スポーツクラブや野球チームが合同であるなどいうことはあるか。若い人が望まない面もあるかと思うので、大人が考えても若い人たちが反応しなかったりすることも結構あるかと思う。しかし、それも一つの方向性であると思う。仕事以外で何か組んでやれる、それも会社の枠を超えて組んでいけるようなことができたりするのは、一つの考え方としてはあるのではないかと思う。

そういうのをうまく流していけるような場ができたらいいか、そういう拠点というか、よく昔は若者宿みたいなものもあったが、若い人が集まって話をするような場があるのも一つの考え方かと思う。そのあたり何かあるか。

#### ●山本議員

私も住友化学に勤めてから議員生活に入ったが、その時に6千人くらい従業員がいて、中小企業の皆さんと一緒に仕事をしていたと思うが、先程お聞きすると以前は6割くらい住友の仕事があったが、今は3割くらいとのこと。恐らくこれは皆さんの技術力が高まって、住友以外でのお仕事も増えてきたということ。住友企業も恐らく今皆さん方が技術的に高度なことが入って、メチオニンなどの製造過程ができたとしてもなかなか難しかったのではないかということだと思う。そのような中で特に、3割という中小企業の皆様と住友企業の兼ね合いがあるが、今後その辺について増やしていくというような考えはないか。地元

の企業に中小企業振興条例などで6億円とか、7億円とか補助をしているが、技術的にこの事業は難しいというような話がある。その辺に住友の関連と、雇用のお話しをしているが、実際、79社あって、1年間にどのくらい地元の高校生、大学生でもいいが、どのくらい就職しているのか伺いたい。



#### ●稲見青年部会長（新居浜機械産業協同組合）

個人的な話ではあるが、私どもの会社であれば、もうここ13年くらい高校生、大学生も含めて新卒で入ったという実績はない。新卒の求人を出しても、求人倍率が高く、中小企業へはなかなか市内の高校生も含めて来ないのが実態であると感じている。我々も、もちろん企業で魅力を発信しながら若い人たちにやりがいを持っていただいている。多種多様になってきた世の中で、大手企業にはない中小企業の魅力を発信しながら求人はしていくつもりではあるが、なかなか人数的にもこういう中小企業に関心を持つ方がだんだん減ってきているのは、間違いないと感じている。

#### ●萩尾副理事長（新居浜機械産業協同組合）

この間見た数字であるが市内の高校を卒業された方のうち、我々の組合傘下の企業に就職されているのは約30人である。進学される方もいらっしゃるし、この地域で就職される方もいるが、卒業生中30人が組合

企業に就職している。

●伊藤優子議員

毎年そうなのか。

●萩尾副理事長（新居浜機械産業協同組合）

年によって大手の求人が増えると多くなったりはする。

●小野理事長（新居浜機械産業協同組合）

私も新居浜工業高校の出身で、田窪先輩もおられるが、職安に聞くと新居浜の有効求人倍率は約2倍であるが、新居浜工業の先生に聞くと10倍以上だと言う。だから割と大手優先となり、その後我々の中小企業に目を向けてくれるが、非常に少ないというようなことと、工場見学やインターシップなどで、その企業が気に入って入ってくれる子がいるにはいるので、もうちょっとその辺を増やしてもらって、我々の中小企業に勤めてくれる子が増えたらいいと考えている。また、山本議員さんがおっしゃられた住友への依存度が少ないという話についてだが、住友の仕事は目一杯やった後、やる仕事がないから、他の仕事が増えたというのが実際であり、住友の仕事を減らしたというイメージではないことをご理解いただければと思う。

●山本議員

79社の皆様方は、かなりいろいろな技術を持たれている。私が聞いたところでは、そのような形で住友以外のお仕事をずっとされているというような話を聞いているのだが、その辺の技術力が高いものを79社の方は持たれているのではないか。その辺りあればお聞かせ願いたい。

●小野理事長（新居浜機械産業協同組合）

新居浜というのは、割と珍しい技術の集積地であると全国の人が認知しており、大

手になると、今まで社内で作っていたものを全部外注にし、エンジニアリングだけやるといような企業も増えており、全国を見渡した時、新居浜には技術の集積地があるじゃないかということで目をかけていただいて、お引き合いいただくことは結構ある。

●田窪議員

色々聞いた中で、新卒の子や人が住み着いてくれる町とか、住みたいと思えるような町は、みんなで作っていかなければならないという中で、市内の中小企業で働くことへの誇り、これを伝えることが不十分である。これが今ものづくり現場を若い子が目指さないというようなことにもつながるのではないかと思う。今、ゲンバ男子や、機械産業協同組合のプロモーションビデオとか、たまには見るけれども、継続して情報発信しているわけではない。そこら辺りをもう一度ものづくり現場の組合が、こういう高校生向けに企業現場のプロモーションビデオを作ったり、もっとゲンバ男子の枠付けをして発信したりするとか、そういうことを手助けしながら。毎年実際千人の高卒の子が卒業する中で、先程聞いた数字は市内企業へ30人くらいではあるが、増やしていく必要がある。親御さんからしたら、大手の福利厚生がきちんとしているところに行ってほしいというのはわかるが、市内で残ってくれる子を増やすためには、現場の魅力を発信しなければいけないと私は感じている。

●井谷議員

機械産業という男性が多いというイメージのところ、女性もだんだんと増えてきたという話をお聞きして喜ばしいと思うが、

女性が元気で働くために、働き続けるためにこういう工夫をしているというようなことがあればお聞かせいただきたい。

●西岡副理事長（新居浜機械産業協同組合）

もともとがものづくり職場という男世界の中で、女性が入っていただく上で、単純なことかもしれないが、環境的な整備、トイレや更衣室など、そういうところの整備自体にも市の方から助成金をいただきながらやっているため、各企業もそういうのを活用して、環境整備をどんどん進めているところである。また、企業によっては、本当にきれいな食堂を作っており、きれいなところで食事ができるというのは男性よりも女性の方が魅力を感じるので、そういうところを含めて、私たちがパトロール等で組合企業を見ているが、どんどんそのように変化している企業が多いと感じている。

まとめ

○前田教授

女性の活躍を考えても、その環境をどう作っていくのかというのは企業任せではなく、そこをサポートしていくのも大切であると感じた。一つは、人材不足をどう解消するかが大きなテーマである。その中でも、やはり先ほど話があったように、最初に知ってもらって仕事に就く段階、仕事が続いていく段階で考えていかなければならないことが少し違ってくるというのはあるかと思う。そこを整理した上で、官民連携して一緒にどのようにやって行けるのかというのはあると思う。あと、組合側で言うと、先程の誇りを伝えるという話があったが、ものづくり企業、なおかつ中小企業で仕事をする誇りみたいなもの、そういうのをう

まく伝えられればいいかと思う。先ほどPR素材というような話があった。それも支援しながらやっていけるようなことができればいいと少し思った。そういうことをこれから展開できていけばいいかなというのと、もう一つは持続可能な暮らしを作っていくみたいな話になると、生活を豊かにする仕掛けを、これも官民力を合わせて提供していくみたいなことが求められるかなという感じがした。知ってもらう段階だとしたら、先程の見学ツアーや住友ブランドを活用するような話があると思うが、多分そこはいろいろな発想が集まりやすいところかと思う。そこから先程の定住につながっていくところになると、即効性のある政策がとりにくいということもあるかと思うが、そういうこともこれから考えていければいいかなというのを、今日の意見交換から感じたところである。お互いが歩み寄って話をしながら進めて、いい住友の町、そして中小企業にとってもいい町になるようなことができたらいいいと思いながら、この意見交換を終了したい。



■閉会挨拶 市議会副議長 藤田 誠一

資料（会場ホワイトボード）

■ 11月18日（木）

第1部 市民福祉委員会

テーマ：「カーボンニュートラルに向けた取組について」

The whiteboard notes are organized into several key sections:

- カーボンニュートラル (Carbon Neutrality):**
  - CO<sub>2</sub>を増加させない取組 (Activities to prevent CO<sub>2</sub> increase)
  - (温室効果ガス) 排出=0にした (Achieving zero emissions of greenhouse gases)
  - SDGs (Sustainable Development Goals)
  - 生物多様性 (Biodiversity)
  - 出前授業 (School visits)
  - CO<sub>2</sub>=7112 (相互理解) (Mutual understanding)
  - 感想文 (Opinion essays)
  - 家庭に呼びかけ (Call to families)
  - 学校側からCO<sub>2</sub>削減 (CO<sub>2</sub> reduction from schools)
- SDGs (Sustainable Development Goals):**
  - 学校の環境教育を家庭へ展開する (Expanding environmental education from schools to homes)
  - 学校側の呼びかけを頼る (Relying on school-side calls to action)
  - 炭素-11 (Carbon-11)
  - カーボンの削減 (Carbon reduction)
  - CO<sub>2</sub>削減 (CO<sub>2</sub> reduction)
- CO<sub>2</sub>削減の取組 (CO<sub>2</sub> Reduction Activities):**
  - 自転車の活用 (Use of bicycles)
  - 25% (家庭から排出分) (25% from home emissions)
  - 距離がわかる (Distance is clear)
  - 車の配布、報告 (400台) (Vehicle distribution, report (400 units))
  - 1km=120Lの前減 (1km=120L reduction in advance)
  - CO<sub>2</sub>削減 (CO<sub>2</sub> reduction)
  - 利用者が少ない (Few users)
  - 進行環境 (Progress environment)
  - 教育 (Education)
- 環境家計簿 (Environmental Household Ledger):**
  - ごみの削減 (Waste reduction)
  - 生ごみの肥料化 (Composting of food waste)
  - 環境家計簿 (Environmental household ledger)
  - 活動のやりがいを、若人たちの力を活用する (Enjoyment of activities, utilizing the energy of young people)
  - 先人の智慧を活用する (Utilizing the wisdom of ancestors)
  - 交流の場をつくる (Creating an exchange venue)
  - 根を伸ばす (Extending roots)
- その他 (Others):**
  - マテリアリティ (Materiality)
  - 海のゴミがたまる (Plastic waste in the sea)
  - カキの養殖 (Oyster farming)
  - 野菜、肉の保存方法 (Vegetable, meat preservation methods)
  - 代替肉の活用 (Use of alternative meat)
  - 2年生だけ (Only 2nd year)
  - 生徒会が呼びかける (Student council calls for)
  - 目をつけてもらう (Get attention)

第2部 企画教育委員会

テーマ：「今後の公民館の在り方について」

The whiteboard notes are organized into several key sections:

- 公民館の在り方 (Future of Community Centers):**
  - 収益をあげながら活動する (Engaging in activities while generating income)
  - PTA連合会 (PTA Association)
  - 子育て (Child-rearing)
  - イベント (Events)
  - 自給自足を考える (Thinking about self-sufficiency)
  - 小学校と公民館 (Elementary school and community center)
  - 若人たちの企画 (Planning by young people)
  - 自主的に取り組む (Self-initiated)
  - 人材育成 (Human resource development)
- 地域 (Community):**
  - 地域まちづくり (Community revitalization)
  - 自治会 (Neighborhood association)
  - 地域の課題 (Community issues)
  - コミュニティスクール (Community school)
  - 地域のつながり (Community connection)
  - 地域の課題 (Community issues)
  - 公民館の連携 (Cooperation of community centers)
  - 学校運営協議会 (School operation agreement)
  - 地域は多様性 (Diversity in the community)
- 公民館 (Community Center):**
  - 公民館は様々の課題がある (Community centers have various issues)
  - 自治会 (Neighborhood association)
  - 開かれた公民館 (Open community center)
  - モデル事業の進め方 (How to implement model projects)
  - 文化祭、小学校と連携して (Cultural festival, cooperation with elementary school)
  - 若人たちの参加 (Participation of young people)
  - 情報発信 (Information dissemination)
  - 公民館と地域の交流の場 (Exchange venue between community center and community)
- その他 (Others):**
  - PTA連合会 (PTA Association)
  - 子育て (Child-rearing)
  - イベント (Events)
  - 自給自足を考える (Thinking about self-sufficiency)
  - 小学校と公民館 (Elementary school and community center)
  - 若人たちの企画 (Planning by young people)
  - 自主的に取り組む (Self-initiated)
  - 人材育成 (Human resource development)
  - 給食対応 (School lunch response)
  - 110人を巻き込む (Engaging 110 people)
  - 楽にできる (Easy to do)
  - 館長会 (Director's meeting)



■ 11月19日 (金)

経済建設委員会

テーマ：「魅力ある街づくりについて」

